

「額田寺伽藍並条里図」の作成過程について 寺領認定と額田寺図 山口英男

On the Map Making of the Nukata-dera and Its Vicinity

はじめに

① 田地について

② 林・畠・岡・原について

おわりに

【論文要旨】

本報告では、額田寺伽藍並条里図の作成過程に関する問題を取り上げ、図の作成に
いかなる資料が利用されたのかを考えることから、図に記載されている情報がどのよ
うな形で存在し、あるいは生成されたのかを検討した。

額田寺伽藍並条里図（以下、額田寺図と略称）が、基図として校班田図を何らかの
形で利用していることは既に指摘のあるところである。しかし、校班田図の記載のあ
り方と額田寺図の記載内容を比較すると、校班田図だけでは得られない情報が額
田寺図には含まれており、校班田図と現地の地形等を照合する作業だけでは額田寺図
は作成できない。

額田寺図に見える田地以外の地目について検討すると、林については、寺家に施
入・献納が行われると文図が作成され、墾田等と一体となった所領などではそれと平
行して荘園が作成された事例が知られる。これに当てはめるなら、額田寺図は、額田
寺による林の占有が決定されたことにもない文図と並行して作成された図に相当す
ることが考えられる。畠については、校班田図と、国衙ないし寺家の資料を照合させ

てその所属を確定し、地積が算出されて記載されたものと思われる。岡については、
額田寺図の基図となった校班田図には地目の記載がなく、額田寺図によって初めて地
目・所属・地積が確定・算出された可能性がある。丘陵地を寺領とする認定にもな
って額田寺図が作成されたことが考えられよう。原については、以前から額田寺が占
定していた範囲内の空閑地が、額田寺図作成に際して校班田図と照合して抽出され、
地積を算出して記載されたことが考えられるが、実際には額田寺による空閑地の占定
自体が額田寺図作成にともなって実施されたことも想定される。

以上から、額田寺図は、様々な地目からなる額田寺領のかなりの部分について、地
積・所属等を新たに確定する作業をともなって作成されたということが出来る。既に
確定している寺領を描いたというよりは、新たに寺領を確定する作業と密接に関わっ
て作成されたものと思われるのである。こうした作業がいかなる契機・目的で行なわ
れたかについては、様々な可能性が考えられ、より広い視野からの検討が必要である。